

平成25年度子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 兼
「体験の風をおこそう」推進月間事業
「チアフルデー～吉備の森感謝でえ～」
平成25年10月27日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

親子で自然体験活動を楽しむことで、親子のふれあいの大切さを感じたり、他の家族との交流を深めたりすることをねらいとする。

子供の健やかな成長に体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高めることを目的とする。

2. 事業の概要

(1) 開催日

平成25年10月27日(日)

(2) 参加者

参加対象 一般(幼児から大人まで)

参加者 499人

未就学児	84人	(男子 47人・女子 37人)
小学生	206人	(男子 89人・女子 117人)
中学生	2人	(男子 2人・女子 0人)
高校生	0人	(男子 0人・女子 0人)
大学生	0人	(男子 0人・女子 0人)
特別支援学校生	0人	(男子 0人・女子 0人)
社会人	207人	(男子 87人・女子 120人)

遊びリンピック体験者数

上靴とばし	113人
ふりふり30秒	79人
羽子板ラリー	68組

(3) 講師等

遊木皆ツリーイングスタッフ	3名
岡山県シェアリングネイチャー協会	2名
カッター研修指導員	1名
ボランティア	18名

(4) 企画・運営のポイント

- ① 広報委員会が中心となり、事前の広報活動、準備、当日の運営に当たった。また、施設ボランティアも、スキルアップの場として当日の運営に加わった。
- ② 「体験の風をおこそう」推進月間事業として遊びリンピックを組み込み、「上靴飛ばし」、「羽子板ラリー」に今年度新たに「ふりふり30秒」を加えた3種目を行った。
- ③ 前日開催の事業「森の図書館」と連携を図り、宿泊の上、継続参加型とした。
- ④ 県青少協及び地域連携として、それぞれ岡山県青少年教育センター閑谷学校、社会福祉法人吉備の里のブースを設けた。
- ⑤ 音楽的要素を取り入れる試みから当施設利用団体倉敷児童合唱団による合唱を行った。
- ⑥ 体験活動やレストランでの昼食について事前予約を受け付けることで参加者の確保と当日受付の際の混乱回避に寄与した。

3. 活動の内容等

(1) 日程・内容等

活動名	実施時間	内 容
カッター活動	①10:00~11:30 ②14:00~15:30	鳴滝湖でカッター漕ぎを体験してみよう!! (雨天中止) <小学4年生以上> ※要予約 (各回先着 80人)
森の自然探検隊		吉備の森を楽しく探検してみよう!! (小雨決行・要雨具) ※要予約 (各回先着 40人)
ツリーイング	①10:00~11:30 ②12:30~14:00 ③14:00~15:30	ロープを使った木登り技術を修得し、吉備の森を楽しもう。(雨天時屋内) <小学生以上> ※要予約 (各回先着 20人 保険代 350円要)
ウォーキング	9:30~15:30	吉備の森を歩き自然と触れ合おう!!道中には、ちょっとした仕掛けが…(雨天中止)
森のスタジアム		吉備のフィールドアスレチックで元気いっぱい遊ぼう!!(雨天中止) <小学生以下>
カプラ (積み木) 施設紹介		19,000ピースのカプラを使って巨大アートを完成させよう!!
写真コンテスト		チアフルデーの様子を写真にとろう!! とった写真は kibi@niye.go.jp に送ってね。

木のペンダントづくり 紙ブーメランづくり 傘袋ロケットづくり	9:30~12:00 13:00~15:30	世界に一つだけのペンダントを作ろう！！ ブーメランはどうしたら戻ってくるだろう？ ロケットの仕組みはどうなってるんだろう？
遊びリンピック (羽子板ラリー, 上靴飛ばし, ふりふり 30 秒)		とことんやって記録を作れ！！ 上位 3 位にはメダルと賞状があるよ！！ (後日郵送)
閑谷学校ブース (まが玉づくり, 木エキュービックパズルづくり)		吉備で閑谷学校が体験できちゃう！！ この機会に是非！！
吉備の里ブース (花の苗販売)		吉備の里で育てた花の苗を販売！！

昼食（バイキング）11:30~13:30（レストランきびの森）※要予約

※弁当の持込可能（ただし、飲食場所は指定有り）

(2) 活動の様子



遊びリンピック（上靴とばし）



遊びリンピック（ふりふり 30 秒）



森の自然探検隊



合唱（倉敷児童合唱団）



カプラ



おもしろ乗り物遊び

4. 成果・課題

(1) 成果

- ・前日の事業「森の図書館」と連携して広報展開することを通じて、同事業参加者に引き続きチアフルデーに参加いただくことができた。
- ・多くの家族連れ来場者に複数の活動を体験していただき、好評を得た。（イベント開始から終了まで1日中利用してくれる家族が多かった。）また、体験活動や展示コーナーを充実させることにより、当所の利用方法や提供している活動プログラムに加え、展開中の「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を推進した。
- ・「体験の風をおこそう」運動推進月間事業として遊びリンピックを組み込み、「体験の風をおこそう運動」を推進するプログラム構成とした。
- ・倉敷児童合唱団による合唱及びフォトコンテストを取り入れ、芸術的体験活動の要素を新たに加えた。
- ・昨年に引き続き、岡山県青少年教育センター閑谷学校及び社会福祉法人吉備の里の協力を得てブースを出していただき、地域連携を推進した。
- ・アンケート回答者にプレゼントとして機構の啓発グッズを用意し、積極的に声かけを行うことで120件の回答を得ることができ、参加者の傾向を把握することができ、広報戦略上の参考となった。
- ・通常の事業とは異なり、施設ボランティアが運営を担当することで更なるスキルアップにつながった。

(2) 課題

- ・広報開始直後から機構サーバの不正侵入による第三者のホームページ改ざんに伴い、ホームページを通じた広報展開ができなかったことから、利用者数が昨年を下回る事となった。
- ・約58,000枚のチラシを印刷したが、より効率的かつ効果的な広報活動を展開する上でホームページは不可欠であり、ホームページを閲覧するまでの初動の誘導をいかに行うかが課題である。
- ・多くのプログラムを実施する上で、施設ボランティアを確実に確保する必要がある。

担当：総務係長 岡田智宏